

【危機管理課職場関係者】

I（危機管理課二係 係員）28歳 男性

危機管理課に来てから3年ほどたつ。

Aは新人として入庁してきたが、自分とは年齢が近いのでかなり親しくしていた。

Aは酒があまり飲めないので、夕食を一緒に食べに行き、仕事の相談などにのっていた。

Aは大学卒業時に就職活動に失敗しアルバイト生活をしてきたが、その生活は性に合っていたとのことで、あまり苦痛には感じていなかったそうである。

しかし、大学時代から付き合っている彼女から結婚するのであれば、安定した仕事に就いてほしいと言われて、県庁の試験を受け公務員になることにしたとのこと。

実際にやってみると、危機管理課の仕事は人の役に立てるという実感があり、やり甲斐もあるし楽しいと感じていたが、自分は少し要領が悪いので、周りに人に付いていけるか心配と話していた。

今年の夏にはコロナに感染したこともあり、周囲の人に迷惑をかけたと大きく落ち込んでいた。

そのせいで合宿研修に参加出来なかった事を悔やんでいたが、元々、強制的なイベントではないので、今年に参加するといった時は驚いた。

今年の秋はY県でも大雨災害が頻発した。大雨災害への対応は二係がメインとなるが、実際の対応は危機管理課の全員で行っており、全員が疲労困憊の状態であった。

その中でAは彼女との結婚を控え、新居をどうするのか、結婚式はどうするのかなど、休みの日も体が休まらず疲労困憊だとこぼしていた。

1月のNH地震に伴うI県への派遣はA自身が希望したもの。

人の役に立ちたいという意気込みで出発したが、実際の現場では災害現場に行って被害の現場を見たり、また、発災直後の写真を整理する仕事もあり、更に被災者の方へのケアなど心が大きく揺さぶられることが多かったことで、気持ちが大きく落ち込んだようである。

一緒に行ったC専門官は休むようにと優しい言葉をかけてくれたとのことであるが、この程度のことで動けなくなる自分は危機管理課に向いていないのではないかと言い出した。

その後、課長に相談していたようであるが、春の転勤は無かったので、転勤の件は自ら撤回したと思っていた。

結婚したあと元気がないように思えたが、無理をして元気である様子を装っているようにも見えた。

心配して声をかけてみても、新婚なので以前のように食事に行く訳にもいかず、あまり話をできずにいたところ、今回の件が起きてしまった。

自分はAとは最も話しが出来る立場にあったのに、なぜ、気がつくことが出来なかったのか、防ぐことが出来なかったのか、悲しくて仕方がない。

事故のあと、夜に寝ようと思ってもAの事が思い出されて眠れないので、弔い酒のつもりで毎晩、お酒を飲むようになったのだが、なんだか最近量は量が増えているように思える。

自殺の理由が仕事によるものなのか、結婚によるものなのか自分には判らないが、どちらも影響を受ける人がいると思うので、自分からは何も話すことはできない。